

病害虫発生予察注意報第2号

平成24年3月14日

三重県病害虫防除所

1. 対象作物：トマト（施設・冬春作型）、イチゴ（施設）

2. 対象病害虫名：灰色かび病

3. 発生地域：県内全域

4. 発生時期：3月～5月

5. 発生量：多い

6. 注意報発令の根拠

1) 3月第2週の巡回調査では、トマトにおける発病株率は5.8%（平年3.2%）、発生圃場率は62.5%（7年平均27.0%）と、平年より多い状況です（図1、2）。イチゴにおける発病株率は11.2%（平年1.0%）、発生圃場率は75.0%（7年平均21.1%）と、平年より多い状況です（図3、4）。また、トマト、イチゴ共に、果実においても発生が確認されています。

2) 一般圃場での発生量は、平年より多い状況です。

3) 1か月予報（3月9日・名古屋地方気象台発表）によると、3月17日から23日にかけて、平年に比べて晴れの日が少なく気温が高くなる見込みのため、灰色かび病の発生に好適な条件になることが予想されます。

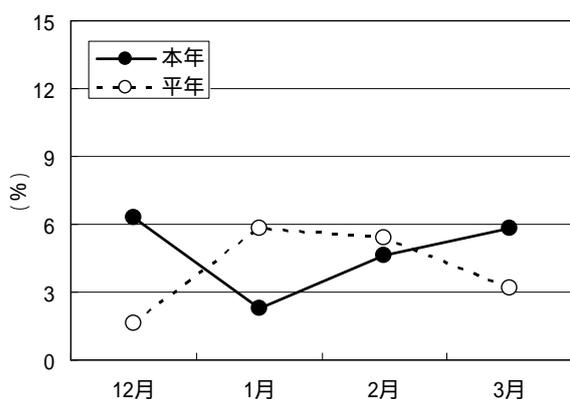


図1. トマト灰色かび病 発病株率

平年値は過去10年間の平均値(12月のみ9年平均)。

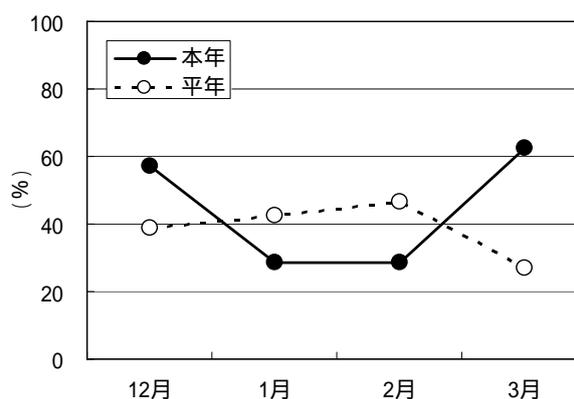


図2. トマト灰色かび病 発生圃場率

平年値は過去7年間の平均値。

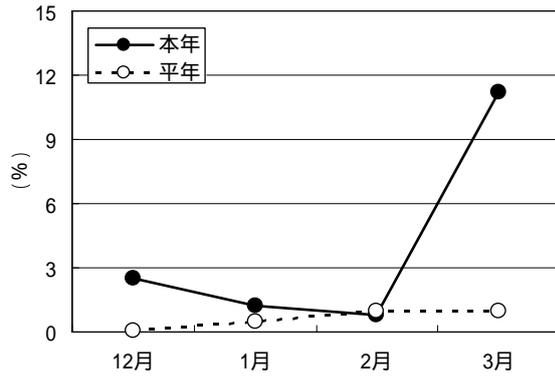


図3.イチゴ灰色かび病 発病株率

平年値は過去10年間の平均値(12月のみ9年平均)。

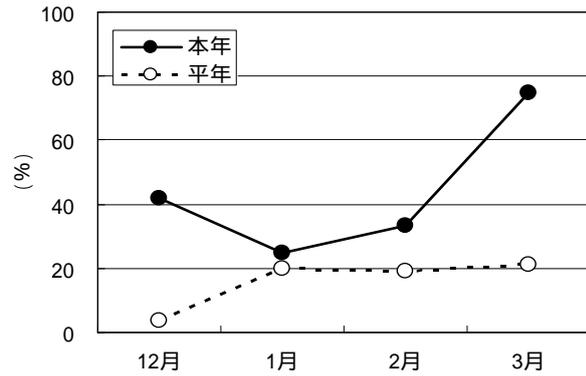


図4.イチゴ灰色かび病 発生圃場率

平年値は過去7年間の平均値。

7. 防除上の注意事項

- 1) 本病は 20 前後の温度と多湿条件で発生しやすいため、ハウス内の温度および湿度管理に注意してください。特に、曇雨天時が続く場合は、循環扇や暖房機を稼働して、ハウス内の湿度を下げないようにしてください。
- 2) 発病した茎葉や果実、枯死葉等は伝染源となるため、こまめに取り除いて圃場外に持ち出し、適切に処分してください。
- 3) トマト果実では、胞子が発生しなくても果実表面に黄白色の小斑点（ゴーストスポット）が生じることがあります。商品価値を著しく落とすので、注意が必要です。
- 4) 病勢が進行すると防除が困難となります。圃場をよく観察し、早期発見、早期防除に努めてください。
- 5) 発病前の予防的薬剤防除が基本です。また、曇雨天時は液剤の使用を控え、くん煙剤を利用すると過湿防止になります。
- 6) 薬剤防除では、薬剤耐性菌を生じる恐れがあります。そのため、同一系統薬剤の連用は避け、作用機構の異なる薬剤でローテーション散布を行なってください。
- 7) 農薬は散布する前にラベルの表示事項を再度確認し、適切に使用しましょう。

農薬はラベルの表示を確認して、正しく使用してください。